



# 大森六中だより

令和3年 7月号

大田区立大森第六中学校

統括校長 菅野 哲郎

TEL 3726-7155

## 夏休みを有意義に



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization

洗足池に咲く紫陽花の花の色が褪せていく中で、蝉の声を聞くようになり、季節は梅雨から夏に変わろうとしています。

学校は、4度目の非常事態宣言下の中で1学期を終えて、7月21日から42日間の長い夏休みに入ります。

去る7月9日(金)に3年生を対象に行われた「卒業生の話聞く会」では、この春卒業した4名の高校生を迎えて、受験に向けた経験談を聞かせていただきました。

それぞれ進学先が都立、私立を含めて異なるものの、一様に夏休みの過ごし方が大切であることを伝えていました。目標を固めるために自分の足を使って情報を収集することや、これまでに習った基礎を固めることなど、計画的かつ有意義に過ごしたことが、それぞれの目標の達成につながったようです。

私も遡ること46年前の夏は、苦手としていた国語の勉強として、国語の基礎を学習できる、そして夏休み中に最後まで終えられそうな、なめらかな最後の少ない問題集を買いました。そして、その問題集を予定通り夏休み中にやり終えると、不思議と自信が芽生えて、その後の国語の成績が向上したことを覚えています。何事も最後までやり遂げることに繋がります。

一方で、夏休みは生活リズムも乱

れがちになります。しかし、社会人には長い夏休みはありません。家族のために働く保護者の方と少なくとも起床時間は合わせましょう。そして、普段はできない家事の手伝いをしましょう。私も中学生時代、夏休み中は家族の布団の上げ下げと、玄関の掃き掃除が日課でした。

皆さんは「幸せホルモン」と呼ばれるセロトニンを知っていますか？セロトニンは、心のバランスを整える作用のある伝達物質です。そのためセロトニンを増やすことで精神的な安定が得られると言われてい

ます。また、セロトニンには、起きている時にスッキリした意識にさせる、朝起きる時、体を活動する状態にさせる、痛みの感覚を抑制させる、など様々な働きがあります。セロトニンが少なくなるとこれらの働きがうまくいかなくなり、寝起きが悪くなったり、些細なことで痛みを感じやすくなったりします。また、セロトニンが不足すると背中が丸まったり、どんよりとした表情になったりしてしまいます。

セロトニンは規則正しい生活をしたり、光を浴びたり、ダンスやジョギングなどのリズム運動をすることにより増加すると言われています。

是非、3密を避けて感染予防に努めつつ、幸せホルモンのセロトニンを増やして、実りのある夏休みをしましょう。

## 2年生 職場体験学習

7月6日（火）から8日（木）に2年生が1クラスずつ交代で、職場体験を行いました。3日間の受け入れが難しい状況で、1人が体験できたのは1日のみとなりましたが、多くの事業所の皆様のご協力により、働くことの意義を考えることができました。また、体験は1日しかできませんでしたが、地域や保護者の皆様にご来校いただき、職業についての出前授業をしていただきました。普段なかなか知ることのできない職業についてのお話を聞くことができ、今後の進路について考えるうえで、大変参考となるものでした。



イオン御嶽山駅前店



洗足池図書館



郷土博物館



ミミスイミングクラブ



東急ストア長原店



勝海舟記念館

## 3年生 税理士による租税教室

7月15日（木）三年生を対象に租税教室が行われました。当日は日本税理士連合会の三人の税理士さんが、「Ⅰ税の意義・役割」「Ⅱ税から考える社会の仕組み」と二つの視点から授業をしてくださいました。中学生一人が一年間学校で学ぶのに使われる税金は約130万円。義務教育九年間では一人当たり約990万円が必要というお話を聞き、自分たちの暮らしにいかに関税が使われているかなどをみんなで学び、考えました。そしてこれからは、「主権者として税を考え、使い道に関心を持ち、責任をもちましょう。」とお話していただきました。



# “届けよう、服のチカラ” プロジェクト講演会

1年生を対象に GU の店長を講師にお呼びし、大森六中でも毎年取り組んでいる“届けよう、服のチカラ”プロジェクトの講演会を行いました。着なくなった服を捨てずに、難民のもとへ届け役立たせることができる仕組みを知ることができました。実際の服の回収は2学期に行う予定です。



# 私の行き方発見プログラム

2年生の職場体験前に、Panasonic の社員を講師にお招きし講演を行いました。学校での勉強と仕事のつながり、ものづくりの工程、どのような役割の人が会社を支えているのか、会社全体をサポートする役割などを考えることができました。



# 持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

## 子ども達の平和のメッセージ展

(公財) 広島平和文化センター国際部平和市民連帯課主催「子ども達の平和のメッセージ展」に応募するために、3年学級委員会が中心となって呼びかけ、全校生徒がメッセージを書き、大きなポスターを作りました。令和3年度「ひろしま子ども平和の集い」の中止が決定し、代替事業として8月6日に平和記念公園内に展示されます。

「1945年8月、広島市と長崎市は、原子爆弾により一瞬にして廃墟と化し、多くの尊い命が奪われました。原子爆弾は、その投下から76年経過した今でも、放射線による後遺症や精神的な苦しみを生き残った人々に脅かし続けています。このような惨禍を二度と繰り返さないために、「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という被爆者の思いをしっかりと受け継ぎ、平和な未来を創っていきましょう。」(募集パンフレットより)



## 卒業生の話

7月10日(金)3年生進路学習の一環として、今年卒業した4人の卒業生に来校してもらい、3年生に、受験時の苦労したこと、夏休みの過ごし方、高校選びの決め手、学習の集中法など、今まさに3年生が聞きたいことを、話してもらいました。

都立高校生、私立高校生、校種の違い、受験方法の違いから、多様な話を聞くことができました。中には、自分が失敗したことを、後輩のためにしっかり伝えてくれ、3年生にとって、何よりのありがたい話になりました。

その中で、全員の口から出てきたことは、友達との時間がとても大切で、勉強の合間に友達と話したり休み時間遊ぶことが、とてもリラックスできた。スマホをいじっている時間は罪悪感を感じてしまうので、空いた時間は思いっきり、友達と遊んだ方がいい。友達とはライバル意識を持って、励まし合うことでモチベーションを上げた。など、友達との話が多かったです。

会の後、卒業生だけで雑談している時、六中の授業は意見を発表したり書いたりすることが多く、刺激が多かったのも、高校へ行っても授業中、困ったことはない、と言っていました。六中から巣立った生徒達のさらなる成長を感じることができ、今後の活躍を期待します。在校生も自分の進路を切り開いてもらいたいです。

